

日本森林療法協会の退会について

小生は、2009年4月5日付を持って、日本森林療法協会の理事長を辞任し、退会することを表明いたしました。

また、それと前後して、小生の他、5名の理事、1名の監事、1名の事務局の方も、辞任・退会を表明され、市民研究会の立ち上げ時からの方々や、地域医療において真摯な実践をされてきた医師の方々も退会を表明されました。

「寝耳に水」の会員の皆様方もいらっしゃると思います。各地で真摯に森林療法をお考えの会員の皆様方をはじめ、関係者の皆様方にも大変ご心配をおかけすることになり、誠に申し訳ありません。重ねましてお詫び申し上げます。

しかしながら、辞任、退会を決意するまでには、数ヶ月以上にわたる理事の中での議論のやりとりや、様々なことがありました。また、2002年に立ち上げた市民研究会の森林療法研究会以来、細々と地域で積み上げてきたことを思い、振り返ると、小生自身誠に残念で、一言ではとても言い表すことができません。

退会された理事、監事、事務局の方も、協会の健全な運営を誰よりも心配し、最後まで努力されていたことをどうか会員の皆様方にはご理解いただきたいと思います。

NPOの運営に際して、理性で判断をしていれば、まず間違った方向には進まないだろうと小生も考えていましたが、運営の倫理観や、方向性の判断は、それぞれの立場によって異なります。何が正当で、何が誤りなのか、結論が下せないこともあります。それぞれの言い分もちろんあります。森林療法に対する思いや目的もまた、その方によって様々なことでしょう。

しかしながら、会をすすめていく中で、小生および理事会に確認、連絡のないところで、協会主催による事業が行われていたこと、またその事業内容も地域の方々にとってご迷惑をおかけしていたことを知りました。さらに、小生自身は、協会以外の助成事業でも同様のことを度々経験することになりました。

いわゆる「地域おこし」的な事業の場合、地域の方々はたとえ不満を持っていても、都市部の企画者、事業者に対して、勇気を持ってはっきりと意見を口に出すことは難しい場面が多々あります。また、そうした事業の手続き上において、組織の理事会および代表の知らないところで協会、代表の氏名、協会の印鑑が使われ、その報告や連絡が行われなかった場合、療法云々の前に1つの組織として問題があります。（小生からも、協会名、理

事長名、協会印を使用する契約締結な場合には、必ず報告をしていただくように連絡をしましたが、そうした連絡は小生にはありませんでした) さらにそのような事業が地域のためではなく、企画側本位の利益を受益する内容であったとしたら、「森林療法」の名前を冠し、地域の方々の思いや足元を逆手にとった、「巧言令色少なき仁」のような事業ともなります。これはNPOの理念に反しますし、もとより小生の本意でも、研究会ならびに協会の設立にあたり、目指していた理念でもありません。

しかしながら、小生は組織の代表として、そのような事業の実施を知らなかったということでは済みません。また、他にも地域の方々にご迷惑をおかけしていたことを知り、組織内の偏りや、隔たりがありました。そこで小生は、代表としてこれらの責任を取り、地域の方々にも小生から重ねてお詫び申し上げるとともに、辞任および退会を表明することにいたしました。

同じ組織の中でも、地域の森林で、地道で素晴らしい実践を積み重ねていらっしゃる方もいれば、いちはやく個人的な事業・営利としての展開をはかりたい方、広告・顕示も含めたビジネス対象の拡大、ご自身のアイデンティティとしたい方、すでに「療法」が生業として必要な方の中にはおみえのことでしょう。さらに、同じ組織内であっても、雇用関係や、ビジネスパートナーとしての関係を持った方々同士であれば、その利害関係から自由な意見は出しにくいことも当然あるでしょう。しかし、だからこそ、「NPO」としての運営のあり方は、やはりきちんとした形で守られるべきです。

当初の健全なNPOの趣旨が、いつの間にか組織の中の特定の方々の事業にすりかわっていたり、また営利事業の後ろ盾のようにされ、森林療法を必要とする方々のための事業ではなく、実は森林療法を行う側本位の事業になってしまうおそれなどはないか十分に留意し、また何よりも会員の方が安心して納得してご参加いただけるような健全な運営が必要とされます。会員の方々は健全な運営がなされていると信頼して入会をしてくださったはずです。

もし本当にNPOの持つ社会的責任を考え、「会員のために」、「会員とともに」「会員の皆様に寄り添う」という姿勢を持つのであれば、何よりもNPOの趣旨に賛同してご参加いただいた会員の皆様に納得のいく、NPOの趣旨に則った健全な運営や事業がきちんと行われていたのか、会員の気持ちも汲み取らずに事業を行ってはいなかったか、上記のような問題点はなかったかをまずきちんと考えるべきであり、本当にそうした事業の内容や運営の方法を会員の皆さんが本当に望み、認めるのかを、事業の仔細などもふまえてきちんと公開しておはかりするべきです。退会された理事の方々もどれだけ最後まで真摯に考え、会員の皆様方のために努力をされていたのかをご理解いただきたいと思います。

協会を退会することにはなりましたが、これは森林療法を放棄することではなく、各地域の弱者の方々をはじめ、本当に森林療法を必要としている人々に寄り添うことができるような素朴なあり方、素直な気持ちの原点に立ち返って、森林と人間が共に健やかになっていく姿勢のもとでまた取り組んでいきたいという小生の元からの希望でもあります。

2009年3月に行われた基礎研修会では、くしくも参加者の方から、「上原先生ご自身は、これから森林療法の事業展開を優先させることと、一つずつ地道に構築をしていくのとは、どちらをお考えですか」との質問をいただきました。小生は、「短期的、短絡的な一時のPRや営利事業で終わってしまうようなことに終始するのではなく、たとえ人目に触れなくても、地道に一つずつ確かなステップを構築していく方が、森林療法の確かな定着や、発展のためには望ましいと信じています」とお答えさせていただきました。

現在、様々な「海千山千」の保養・療養ビジネスもありますが、それらとは一線を引いて距離を置き、喩えるなら、見栄えの良い緑化木をいきなり植えていく手法でなく、100年後の大木を夢見るブナやミズナラの稚樹のような、小さくとも、誇りのある森林療法をこれからも変わらずに大切に育てていきたいと思っています。

自然の恵みをいただいた療法が、本当にそれを必要とするものになり、爽やかで美しく咲いて人々の心を和ませる花を咲かせるのか、あるいは自然療法を営業する者のための方策であり、やがて埃をかぶって打ち捨てられるインスタント造花のようなものになるのかは、やはりこれを扱う人間の手と、道義による選択に委ねられているように思われます。小生自身は、やはりたとえ小さくとも、前者の自然の花を育てていきたいと思っています。

以上、はからずも長文になりましたが、お詫びとともにご連絡させていただきます。最後までお読みいただきまして、誠にありがとうございました。

これからも変わらずに広く市民のための森林療法に取り組んでいきたいと思っておりますので、どうぞ今後ともご指導ご鞭撻のほどを賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

上原 巖

「みんなの森」の発足について 2009年6月30日

これまで山間部の社会福祉施設での活動をはじめ、働き盛りの方々、学校の先生方、子ども、親子、病院周辺、地域、山村などでの森林での活動や休養のこころみに稚拙ながら取り組んで参りましたが、それらを「みんなの森」という活動名称で、今後も続けていきたいと思っています。この活動については、2009年の春先よりずっと考えてきたことです。

「みんなの森」では、それぞれの地域にある森林・山林での活動や休養を通して、森林と人とのコミュニケーション、人とのコミュニケーションがより良い形で取れる時間が過ごせるような機会と場を作っていきます。森林療法もこの中に含まれます。

また、現在の長期の不況のもと、森林療法に関心があったり、興味がありながらも、様々な会の入会金や研究会、体験会の費用を払うことができない方も世の中には大勢見えます。

けれども、必ずしもお金を支払わなければ森林での保健休養や森林療法はできないというものではなく、また、特定の団体に属している人だけがそれらを楽しむ資格や特権があるわけではありません。

もちろんある程度の団体の組織運営を行うには、お金を集めることは必要なことだと思います。

しかしながら、そのような営利や事業拡大のような路線は選択せず、どなたでも広く市民が心のよりどころとなるような機会と場を、できる範囲でささやかながら作っていきたいと思います。

具体的には、全国各地での森の活動の際に、その旨をお伝えし、志のある方が手弁当で集まり、2002年の発足時の「森林療法研究会」の精神同様に、会費無料で、どなたでも気楽に参加できる機会・場として、毎回ごく小さな集まりの活動を各地で行っていきます。

各地の放置林の保育作業や再生活動などを通して、身近な森林環境を見直し、そうした身近な森林の持つ保健休養効果についての調査研究も同時に行います。

森林療法はもともと何よりも弱者のためのものであったはずですが、また、森林そのものは、セレブであっても、貧者であっても、分け隔てすることは決してありません。

社会の弱者の方々をはじめ、本当に森林での保健休養や、森林療法を必要としている人々に寄り添うことができるような素朴なあり方、素直な気持ちで、森林と人間が共に健やかになっていく姿勢のもとで取り組んでいきたいと微力ながら考えています。

どうぞ今後ともご指導ご鞭撻のほどを賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

上原 巖